

平成23年度の  
生乳及び牛乳乳製品の需給見通しについて

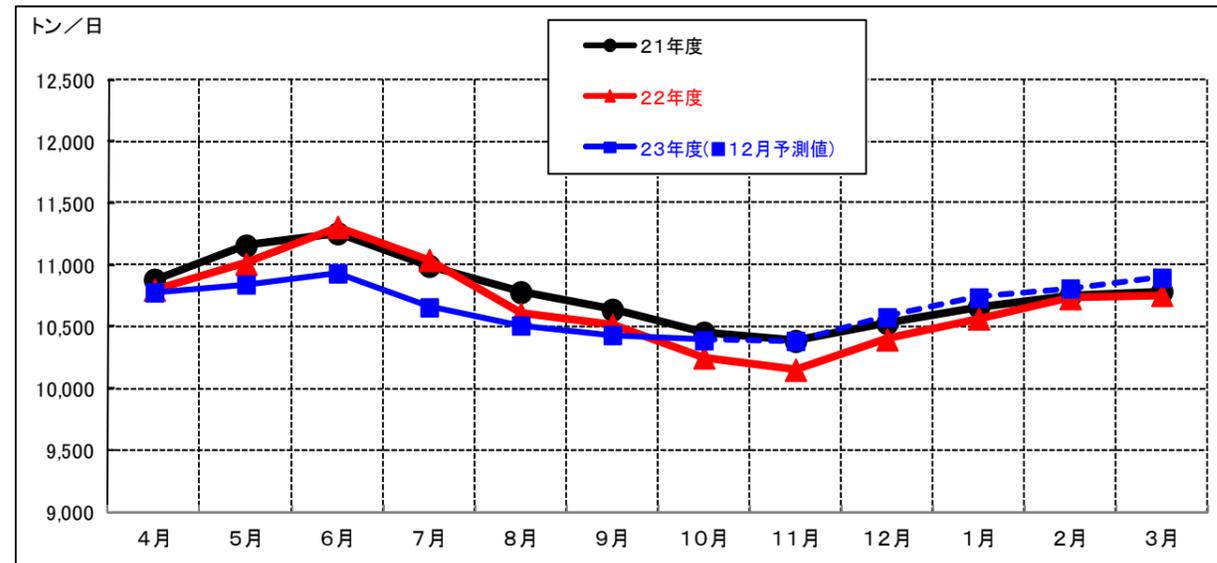
平成23年12月9日

需給委員会

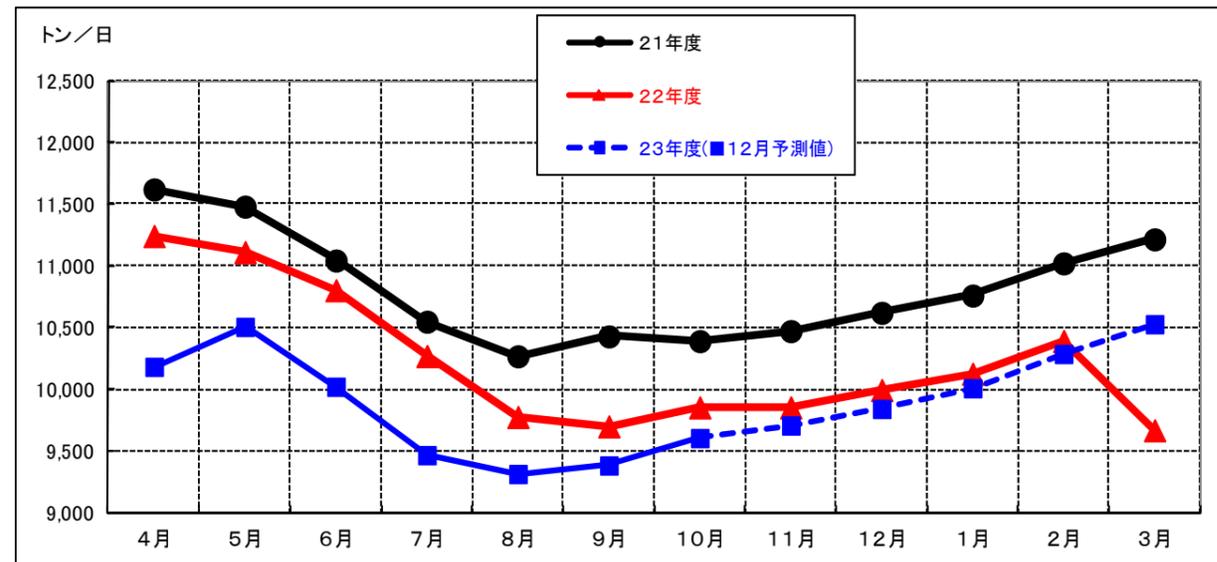
社団法人 日本酪農乳業協会

# 1. 地域別の生乳生産量の動向

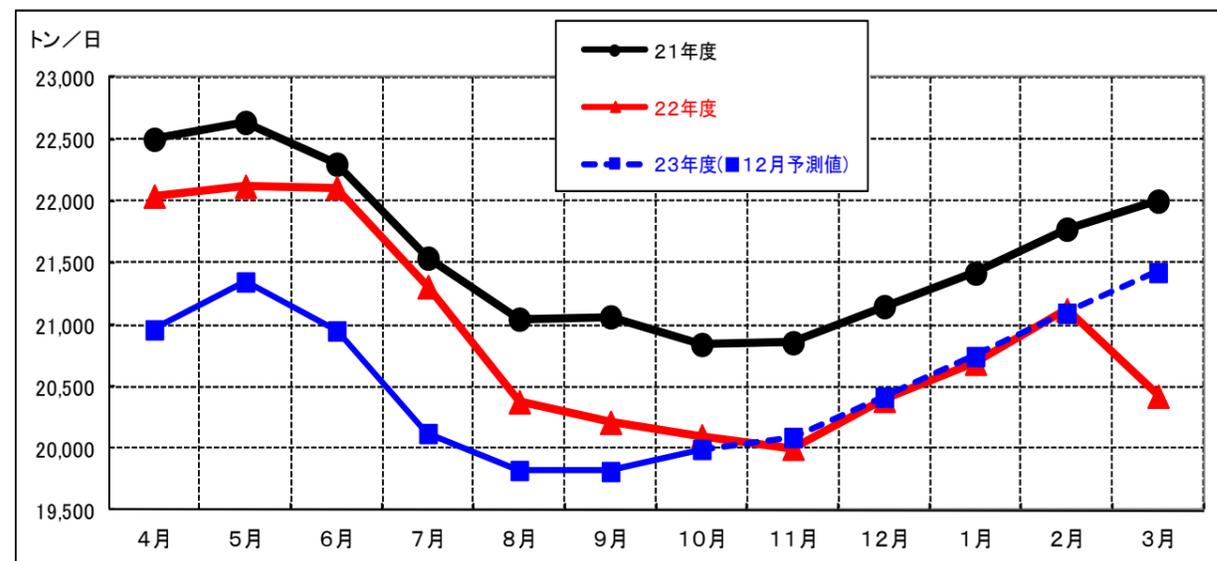
グラフ1-1：北海道の生産量(日均量)



グラフ1-2：都府県の生産量(日均量)



グラフ1-3：全国の生産量(日均量)



## 【生乳生産量予測の前提】

・生乳生産は震災等の影響で廃棄、出荷停止が発生しており、一旦その影響を排除した上で、平成23年度の生乳生産量を予測モデルで算出した。更に、それを基に震災等の影響、直近の動向を考慮し、東北地域他の値を修正した。  
 ・なお、実績値が判明したものは予測値を実績値に置き換えている。

表1：平成23年度 地域別生乳生産量の見通し

	全 国		北海道		都府県	
		前年比		前年比		前年比
4月	629	95.1%	323	99.8%	305	90.6%
5月	662	96.5%	336	98.5%	326	94.6%
6月	629	94.8%	328	96.7%	301	92.8%
7月	624	94.4%	330	96.5%	293	92.2%
8月	615	97.3%	326	99.1%	289	95.3%
9月	594	98.0%	313	99.2%	281	96.7%
10月	620	99.5%	322	101.4%	298	97.5%
11月	603	100.4%	312	102.3%	291	98.5%
12月	633	100.1%	328	101.7%	305	98.5%
1月	643	100.3%	333	101.6%	310	98.8%
2月	612	103.4%	313	104.3%	298	102.5%
3月	664	104.9%	338	101.3%	326	108.9%
第1四半期	1,919	95.5%	987	98.3%	932	92.6%
第2四半期	1,833	96.5%	969	98.3%	864	94.7%
第3四半期	1,856	100.0%	962	101.8%	894	98.1%
第4四半期	1,919	102.8%	984	102.4%	935	103.4%
上期	3,752	96.0%	1,957	98.3%	1,795	93.6%
下期	3,775	101.4%	1,946	102.1%	1,829	100.7%
年度計	7,527	98.6%	3,902	100.1%	3,624	97.1%
閏年修正						
年度計	-	98.4%	-	99.9%	-	96.8%

### 【北海道】

・上期 1,957千トン(前年度実績対比98.3%、以降同じ)、下期 1,946千トン(102.1%)で、年度合計 3,902千トン(100.1%)と見通される。

### 【都府県】

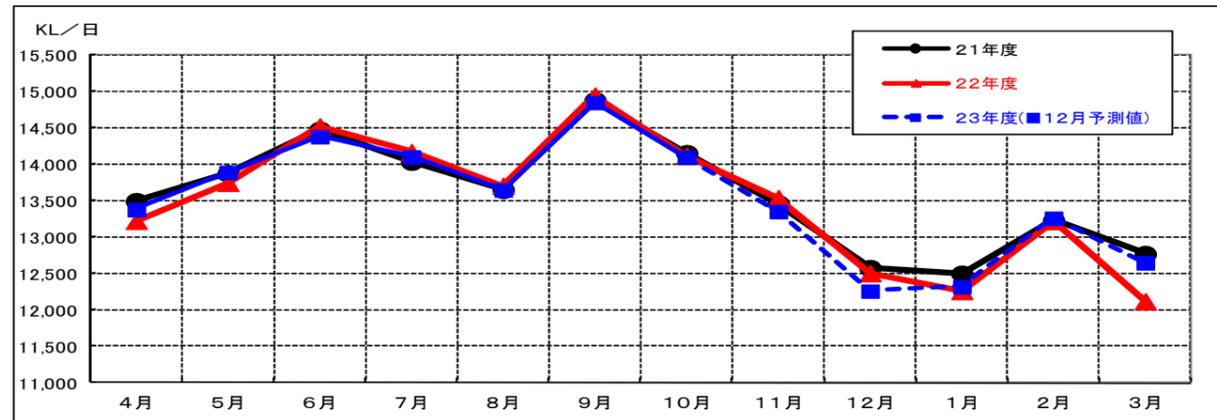
・上期 1,795千トン(93.6%)、下期 1,829千トン(100.7%)で、年度合計 3,624千トン(97.1%)と見通される。

### 【全国】

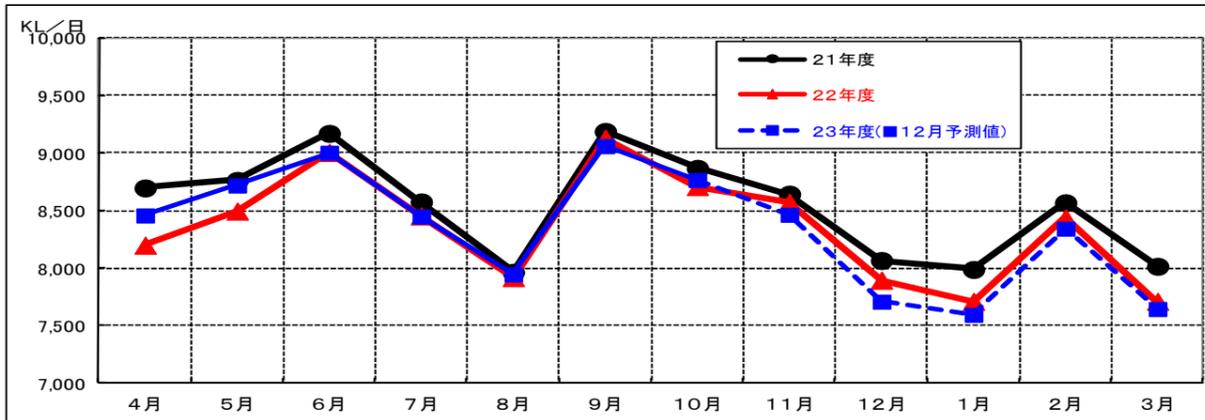
・全国トータルの生乳生産量は、上期 3,752千トン(96.0%)、下期 3,775千トン(101.4%)で、年度合計 7,527千トン(98.6%)と見通される。

## 2. 牛乳等生産量の動向

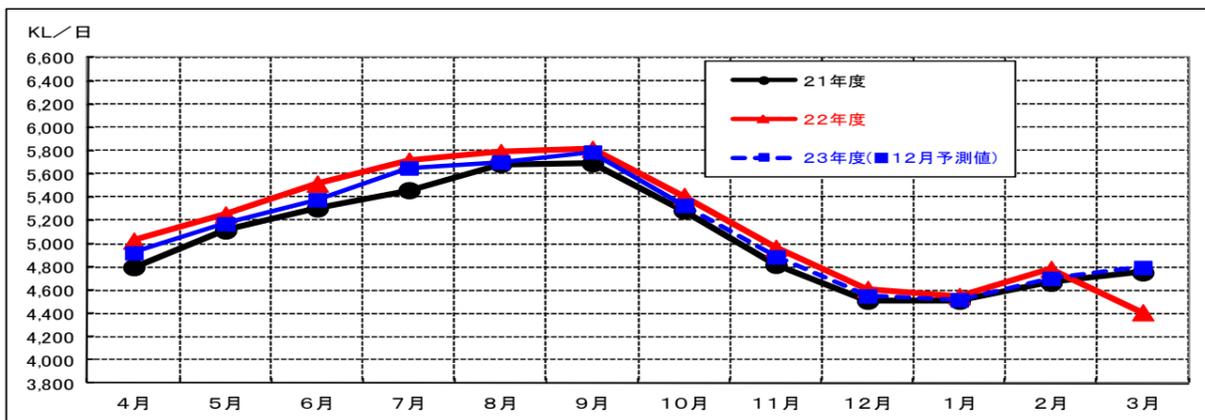
グラフ2-1：牛乳類の生産量(日均量)



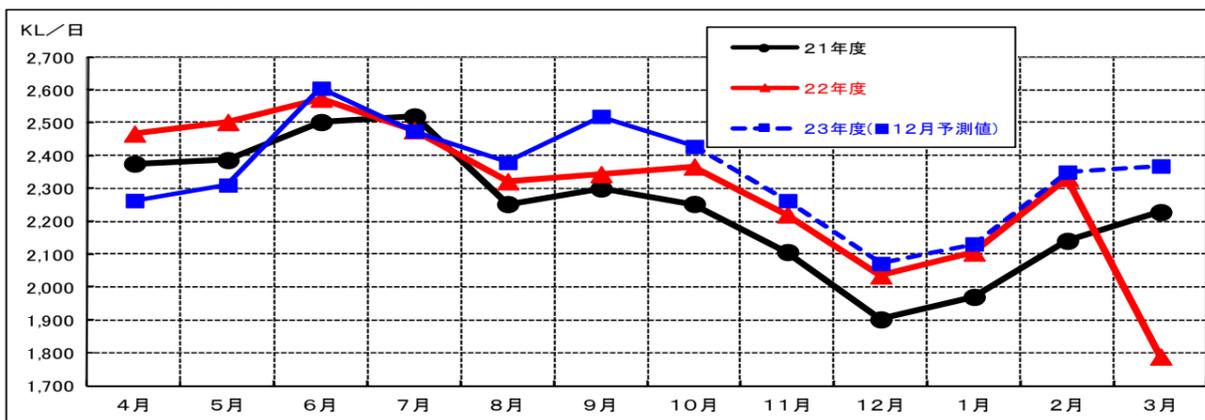
グラフ2-2：牛乳の生産量(日均量)



グラフ2-3：加工乳・成分調整牛乳・乳飲料の生産量(日均量)



グラフ2-4：はっ酵乳の生産量(日均量)



### 【牛乳等生産量予測の前提】

- ・牛乳等生産量は震災等により平成23年3、4月に牛乳等需要に影響があったとし、平成23年2月までの実績値と5～10月の実績値にて予測モデルで算出。更に直近の動向を考慮し、修正を加えた。
- ・なお、予測値で実績が判明したものは実績値に置き換えている。
- ・牛乳は、「学乳」「業務用牛乳」「業務用・学乳以外の牛乳」を別々に予測した値の総量。
- ・「加工乳・成分調整牛乳・乳飲料」は、「加工乳・成分調整牛乳」と「乳飲料」に区分して予測した値の総量。

表2：平成23年度 牛乳等生産量の見通し

	牛乳類		牛乳		加工乳・成分調整牛乳・乳飲料		はっ酵乳	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比		
4月	401	101.2%	254	103.2%	148	97.9%	68	91.7%
5月	431	101.0%	270	102.6%	160	98.5%	72	92.3%
6月	431	99.0%	270	100.0%	161	97.5%	78	101.2%
7月	437	99.5%	262	99.9%	175	98.9%	77	99.9%
8月	423	99.6%	246	100.3%	177	98.5%	74	102.5%
9月	445	99.4%	272	99.2%	174	99.5%	76	107.5%
10月	437	99.8%	272	100.7%	165	98.5%	75	102.6%
11月	401	98.6%	254	98.8%	147	98.4%	68	101.9%
12月	380	98.0%	239	97.6%	141	98.7%	64	101.8%
1月	376	98.8%	235	98.5%	140	99.3%	66	101.2%
2月	378	102.2%	242	102.4%	136	101.8%	68	104.3%
3月	386	102.6%	237	99.1%	149	108.7%	73	132.4%
第1四半期	1,264	100.4%	794	101.9%	469	98.0%	218	95.1%
第2四半期	1,306	99.5%	780	99.8%	526	99.0%	226	103.2%
第3四半期	1,218	98.9%	765	99.1%	453	98.6%	207	102.1%
第4四半期	1,140	101.2%	715	100.0%	425	103.3%	208	111.6%
上期	2,569	99.9%	1,574	100.8%	995	98.5%	444	99.1%
下期	2,357	100.0%	1,479	99.5%	878	100.8%	415	106.7%
年度計	4,927	99.9%	3,054	100.2%	1,873	99.6%	859	102.6%
閏年修正								
年度計	-	99.7%	-	99.9%	-	99.3%	-	102.3

### 【牛乳類：牛乳・加工乳・成分調整牛乳・乳飲料】

・上期 2,569千kl (99.9%)、下期 2,357千kl (100.0%) で、年度合計 4,927千kl (99.9%) と見通される。

### 【牛乳】

・上期 1,574千kl (100.8%)、下期 1,479千kl (99.5%) で、年度合計 3,054千kl (100.2%) と見通される。

### 【加工乳・成分調整牛乳・乳飲料】

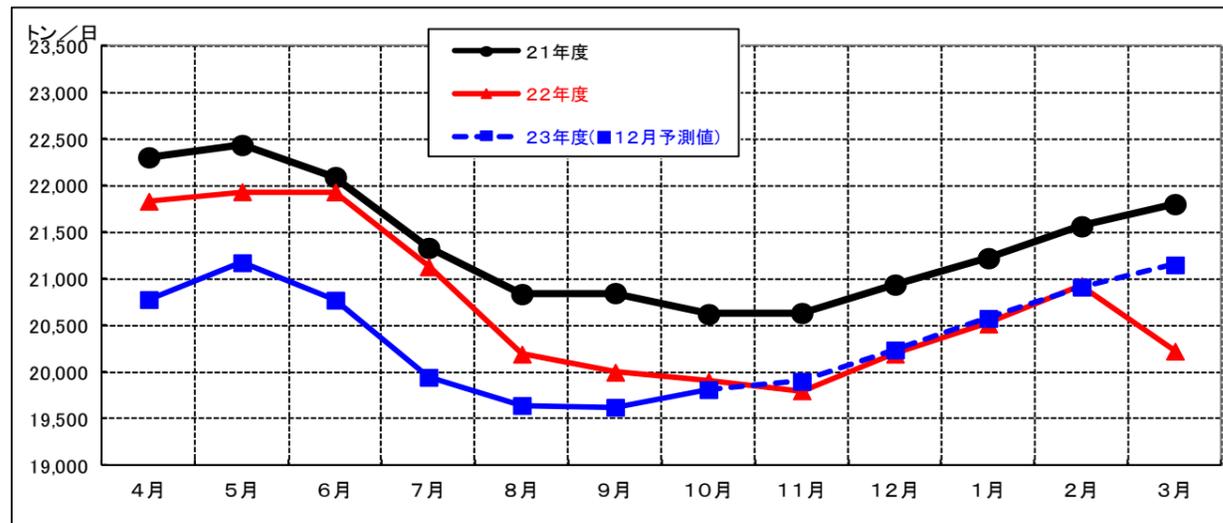
・上期 995千kl (98.5%)、下期 878千kl (100.8%) で、年度合計 1,873千kl (99.6%) と見通される。

### 【はっ酵乳】

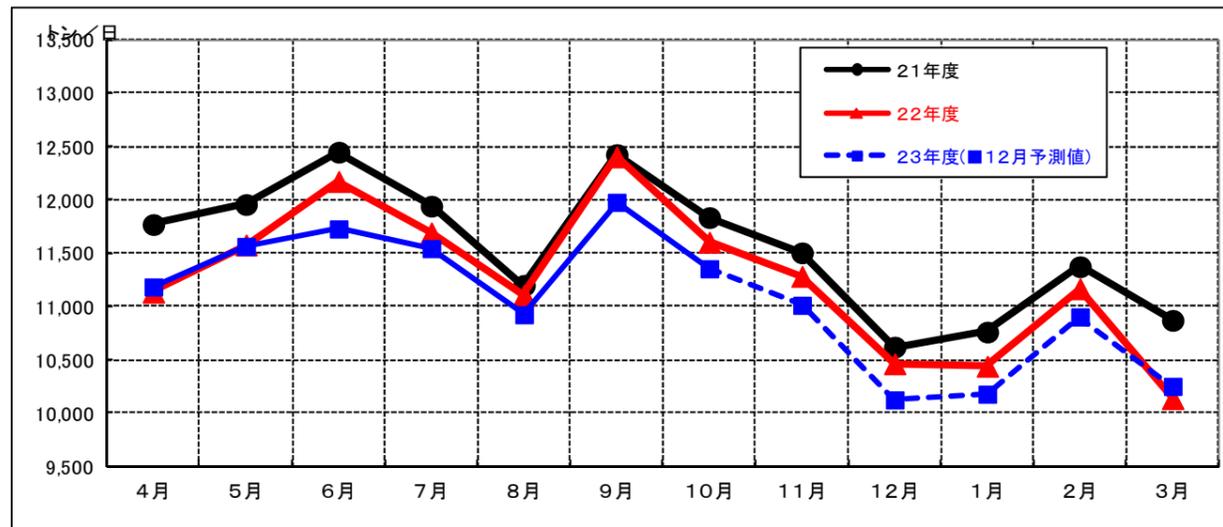
・上期 444千kl (99.1%)、下期 415千kl (106.7%) で、年度合計 859千kl (102.6%) と見通される。

### 3. 用途別処理量の動向

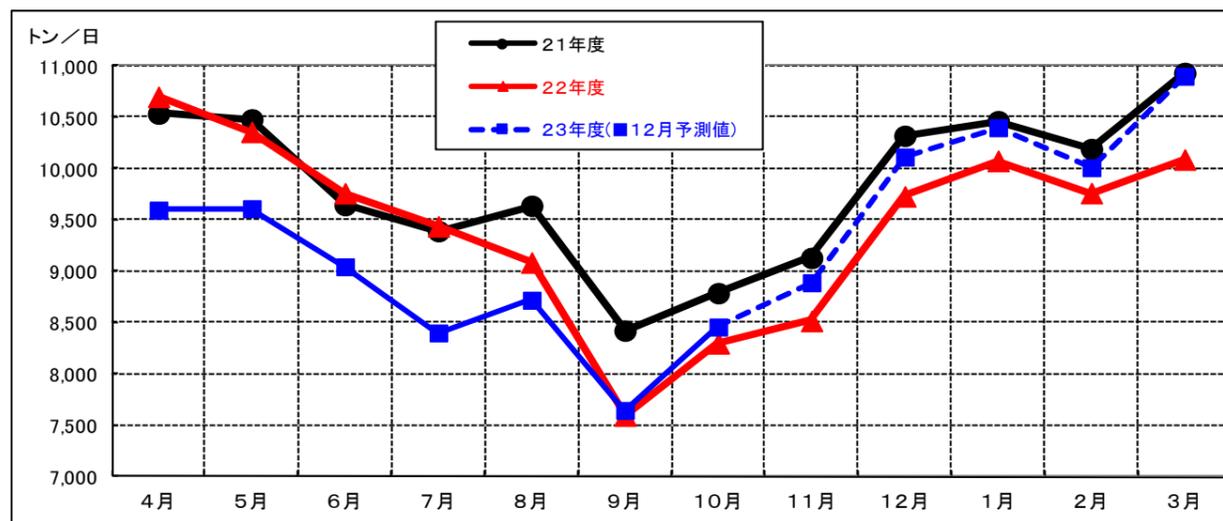
グラフ3-1：生乳供給量（全国・日均量）



グラフ3-2：牛乳等向生乳処理量（日均量）



グラフ3-3：乳製品向生乳処理量（日均量）



#### 【用途別処理量予測の前提】

- ・生乳供給量は、生乳生産量から自家消費量を差し引いて算出（自家消費量は、各地域の本年度5月以降の実績値を勘案して算出）。
- ・牛乳等向処理量は、牛乳、加工乳・成分調整牛乳、乳飲料、はっ酵乳の予測生産量を元に、生乳使用率、比重(1.032)及び歩留まり(99.5%)を勘案して算出。
- ・乳製品向処理量は、生乳供給量と牛乳等向処理量の差。

表3：平成23年度 生乳生産量及び用途別処理量の見通し

	生乳生産量		自家消費量		生乳供給量		牛乳等向		乳製品向	
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
4月	629	95.1%	5	92.2%	623	95.1%	335	100.4%	288	89.6%
5月	662	96.5%	5	92.3%	656	96.5%	358	99.9%	298	92.8%
6月	629	94.8%	5	91.9%	623	94.8%	352	96.3%	271	92.8%
7月	624	94.4%	5	93.5%	618	94.4%	358	98.7%	260	89.1%
8月	615	97.3%	6	90.6%	609	97.3%	339	98.3%	270	96.1%
9月	594	98.0%	6	93.3%	589	98.1%	359	96.6%	229	100.6%
10月	620	99.5%	6	89.5%	614	99.6%	352	97.9%	262	101.9%
11月	603	100.4%	6	93.7%	597	100.5%	330	97.6%	267	104.3%
12月	633	100.1%	6	92.6%	627	100.2%	314	96.8%	314	103.9%
1月	643	100.3%	5	96.1%	638	100.3%	315	97.5%	322	103.2%
2月	612	103.4%	5	99.6%	606	103.5%	316	101.1%	290	106.2%
3月	664	104.9%	5	94.7%	659	105.0%	318	101.1%	341	108.8%
第1四半期	1,919	95.5%	16	92.1%	1,903	95.5%	1,046	98.8%	857	91.7%
第2四半期	1,833	96.5%	17	92.4%	1,816	96.6%	1,056	97.9%	760	94.8%
第3四半期	1,856	100.0%	17	91.9%	1,839	100.1%	996	97.4%	843	103.4%
第4四半期	1,919	102.8%	16	96.8%	1,903	102.9%	949	99.9%	954	106.1%
上期	3,752	96.0%	33	92.3%	3,719	96.0%	2,101	98.3%	1,618	93.1%
下期	3,775	101.4%	33	94.2%	3,742	101.5%	1,945	98.6%	1,797	104.8%
年度計	7,527	98.6%	66	93.2%	7,461	98.7%	4,047	98.5%	3,414	98.9%
閏年修正										
年度計	-	98.4%	-	92.9%	-	98.4%	-	98.2%	-	98.6%

#### 【生乳供給量】

・上期 3,719千<sup>ト</sup> (96.0%)、下期 3,742千<sup>ト</sup> (101.5%) で、年度合計 7,461千<sup>ト</sup> (98.7%) と見通される。

#### 【牛乳等向生乳処理量】

・上期 2,101千<sup>ト</sup> (98.3%)、下期 1,945千<sup>ト</sup> (98.6%) で、年度合計 4,047千<sup>ト</sup> (98.5%) と見通される。

#### 【乳製品向生乳処理量】

・上期 1,618千<sup>ト</sup> (93.1%)、下期 1,797千<sup>ト</sup> (104.8%) で、年度合計 3,414千<sup>ト</sup> (98.9%) と見通される。

4. 都府県需給の見通し

表4：平成23年度 都府県の生乳需給の見通し

	生乳供給量 A		牛乳等向 B		その他乳製品向 C		A-B-C	移入量 (必要量)		特定乳製品向	
	前年比		前年比		前年比			前年比		前年比	
4月	303	90.6%	293	99.0%	14	102.2%	-4	26	124.9%	22	48.6%
5月	323	94.8%	313	98.2%	15	113.8%	-5	28	116.5%	23	70.4%
6月	298	92.9%	307	94.2%	14	108.3%	-22	36	108.1%	14	87.1%
7月	291	92.3%	309	96.3%	14	96.4%	-32	44	109.4%	12	60.0%
8月	286	95.5%	289	95.3%	14	91.5%	-16	34	85.9%	18	83.5%
9月	279	96.9%	311	95.0%	14	107.3%	-46	54	88.8%	7	95.8%
10月	295	97.7%	305	95.8%	15	100.9%	-25	38	90.1%	14	116.8%
11月	289	98.8%	286	96.0%	15	100.0%	-12	27	81.4%	15	118.0%
12月	303	98.7%	272	94.8%	16	100.0%	15	23	83.0%	38	119.5%
1月	308	99.0%	275	95.7%	13	100.0%	21	23	95.2%	43	123.3%
2月	296	102.7%	275	99.2%	13	103.6%	9	22	88.2%	30	127.3%
3月	324	109.2%	276	99.6%	13	100.0%	36	21	104.5%	57	207.3%
第1四半期	924	92.8%	913	97.1%	42	108.0%	-32	91	115.2%	59	62.8%
第2四半期	856	94.9%	908	95.6%	41	98.1%	-94	131	93.9%	37	75.6%
第3四半期	886	98.4%	862	95.6%	46	100.3%	-21	88	85.4%	66	118.6%
第4四半期	929	103.6%	825	98.1%	39	101.2%	65	65	95.4%	130	151.1%
上期	1,779	93.8%	1,822	96.3%	83	102.8%	-126	222	101.5%	96	67.2%
下期	1,815	101.0%	1,687	96.8%	84	100.7%	44	153	89.4%	196	138.3%
年度計	3,594	97.3%	3,509	96.6%	168	101.7%	-82	375	96.2%	293	102.6%

【都府県の生乳需給見通し】

- ・都府県における北海道からの移入量は、7月までは前年度を上回って推移したが、8～10月と前年度を下回っており、その後も前年度を下回って推移すると見込まれる。(3月は前々年度比 100.1%)
- ・都府県における特定乳製品向処理量は、9月までは前年度を下回って推移しているが、その後は前年度を上回って推移すると見込まれる。(3月は前々年度比 109.9%)

5. 乳製品需給の見通し

【脱脂粉乳、バター需給予測の前提】

- ・特定乳製品向処理量は、「生乳供給量」-「牛乳等向」-「その他乳製品向」で算出。
- ・脱脂粉乳、バターの生産量は、上記算出数量に各々の製造係数(前年度同月数値使用)にて算出。
- ・消費量は、予測モデルで算出。(既存消費量の前年比は、前年度の新規需要創出数量を差し引いた数量で算出)
- ・在庫月数は、「在庫量」÷「前年度平均月消費量」で算出。

表5-1：平成23年度 脱脂粉乳の需給見通し

	生産量		輸入 売渡し	消費量				過不足	在庫量			
	前年比			既存消費量	その他	民間在庫量						
	前年比					前年比	月数		前年比			
4月	12.4	78.1%		13.0	93.8%	13.0	94.2%	-0.5	58.7	58.2	4.6	81.0%
5月	12.7	84.4%		12.7	104.9%	12.7	105.5%	0.0	58.2	58.2	4.6	77.9%
6月	10.5	87.1%		14.0	108.9%	14.0	110.5%	-3.5	54.7	54.7	4.3	73.9%
7月	8.7	75.8%		13.1	87.0%	13.1	89.7%	-4.4	50.3	50.3	4.0	70.9%
8月	9.4	88.5%		12.6	94.3%	12.6	97.9%	-3.2	47.1	47.1	3.7	69.1%
9月	7.9	106.7%		12.1	83.3%	12.1	87.6%	-4.2	42.9	42.9	3.4	69.8%
10月	9.6	99.1%		12.1	89.5%	12.1	94.7%	-2.5	40.4	40.4	3.2	70.1%
11月	10.9	101.1%		11.4	94.3%	11.4	100.6%	-0.6	39.8	39.8	3.2	70.8%
12月	14.8	102.1%		12.8	94.9%	12.8	100.6%	2.0	41.9	41.9	3.3	73.0%
1月	14.4	101.4%		10.4	95.2%	10.4	101.0%	4.0	45.9	45.9	3.6	75.6%
2月	12.2	105.2%		11.1	95.0%	11.1	101.0%	1.1	47.0	47.0	3.7	77.6%
3月	16.0	103.7%		13.8	79.4%	13.8	101.0%	2.2	49.3	49.3	3.9	83.9%
第1四半期	35.7	82.8%		39.7	102.3%	39.7	103.1%	-4.0	54.7	54.7	4.3	73.9%
第2四半期	26.0	88.1%		37.8	88.0%	37.8	91.5%	-11.8	42.9	42.9	3.4	69.8%
第3四半期	35.3	101.0%		36.3	92.8%	36.3	98.5%	-1.0	41.9	41.9	3.3	73.0%
第4四半期	42.6	103.3%		35.3	88.3%	35.3	101.0%	7.4	49.3	49.3	3.9	83.9%
上期合計	61.7	85.0%		77.5	94.8%	77.5	97.1%	-15.8	42.9	42.9	3.4	69.8%
下期	77.9	102.2%		71.6	90.5%	71.6	99.7%	6.4	49.3	49.3	3.9	83.9%
年度	139.6	93.8%		149.0	92.7%	149.0	98.4%	-9.4	49.3	49.3	3.9	83.9%

【脱脂粉乳の需給見通し】

- ・年度合計で、生産量は 139.6千ト(93.8%)、消費量は 149.0千ト(92.7%)と見通される。
- ・年度末の在庫量は 49.3千ト(83.9%)で、在庫月数は3.9ヶ月分と見通される。

表5-2：平成23年度 バターの需給見通し

	生産量		輸入 売渡し	消費量				過不足	在庫量			
	前年比			既存消費量	その他	民間在庫量						
	前年比					前年比	月数		前年比			
4月	5.7	72.8%		6.9	88.8%	6.9	88.8%	-1.3	20.6	19.3	2.8	59.5%
5月	5.9	79.9%	2.3	6.9	119.3%	6.9	119.4%	1.3	20.6	20.6	3.0	60.5%
6月	5.0	82.2%	2.5	6.8	113.2%	6.8	113.8%	0.6	21.2	21.2	3.1	62.1%
7月	4.3	76.5%	1.7	6.3	93.8%	6.3	95.5%	-0.3	21.0	21.0	3.1	62.9%
8月	4.5	87.5%	1.1	5.6	87.2%	5.6	89.3%	0.0	21.0	21.0	3.1	64.5%
9月	3.5	101.9%	1.9	6.0	90.1%	6.0	91.5%	-0.6	20.3	20.3	3.0	68.1%
10月	4.2	93.9%	2.0	6.9	95.1%	6.9	96.9%	-0.7	19.7	19.7	2.9	72.0%
11月	4.8	101.1%	2.1	6.9	90.0%	6.9	91.6%	-0.0	19.7	19.7	2.9	80.6%
12月	5.9	102.1%		8.3	89.9%	8.3	91.6%	-2.4	17.3	17.3	2.5	82.2%
1月	7.2	101.4%		5.1	89.8%	5.1	92.4%	2.2	19.4	19.4	2.8	86.2%
2月	5.9	105.2%		6.3	90.2%	6.3	92.4%	-0.4	19.0	19.0	2.8	89.9%
3月	7.4	103.7%		6.6	85.4%	6.6	92.4%	0.9	19.9	19.9	2.9	96.4%
第1四半期	16.5	78.0%	4.8	20.7	105.3%	20.7	105.5%	0.6	21.2	21.2	3.1	62.1%
第2四半期	12.3	86.6%	4.7	17.8	90.5%	17.8	92.2%	-0.9	20.3	20.3	3.0	68.1%
第3四半期	14.8	99.4%	4.1	22.0	91.5%	22.0	93.2%	-3.1	17.3	17.3	2.5	82.2%
第4四半期	20.5	103.3%		18.0	88.3%	18.0	92.4%	2.6	19.9	19.9	2.9	96.4%
上期合計	28.8	81.4%	9.5	38.5	97.9%	38.5	98.9%	-0.3	20.3	20.3	3.0	68.1%
下期	35.4	101.6%	4.1	39.9	90.0%	39.9	92.9%	-0.5	19.9	19.9	2.9	96.4%
年度	64.1	91.4%	13.6	78.4	93.7%	78.4	95.7%	-0.7	19.9	19.9	2.9	96.4%

【バターの需給見通し】

- ・年度合計で、生産量は 64.1千ト(91.4%)、消費量は 78.4千ト(93.7%)と見通される。
- ・年度末の在庫量は 19.9千ト(96.4%)で、在庫月数は2.9ヶ月分と見通される。
- ・輸入売渡数量13.6千トは、当初予定されていた輸入量11.6千トと追加輸入量2.0千トの合計である。

## 6. 生乳及び牛乳乳製品需給をめぐる情勢について

### 【生乳の生産及び供給】

- 生乳生産は、前年度の口蹄疫発生や猛暑が残した影響が今年度にも引き続き影響を与えていることや、3月の東日本大震災による生乳生産基盤への直接の影響、その後の原発事故の影響による一部地域の生乳出荷停止などに加え、本年度も平年に比べ6月～9月は気温が高かったことで、9月までは前年度に比べ減少が続いていた。
- しかし、10月以降の生乳生産量は、北海道においては、分娩頭数が増加していることから前年を上回って推移すると予測される。都府県においては、震災影響のあった東北・関東においても回復基調であり、口蹄疫の影響があった九州においても前年同月を上回って推移する予測から、全体として回復基調で推移すると予測される。
- 当面する生乳供給は前年度並に推移し、2月は閏年、3月は前年度の震災の影響から前年同月比で大きく上回る。なお、前回9月時点で見通した生乳生産に比べ、北海道、都府県ともに増加で推移すると予測される。

### 【牛乳乳製品及び生乳の需要】

- わが国経済は、円高基調やデフレ経済の影響を受けた景気回復の遅れにより、家庭消費が低調に推移していることに加え、東日本大震災直後は消費者行動に大きな影響があったと推察される。なお、その後の節電による影響も懸念されたが、結果的には市場に対する大きな混乱は生じなかった模様である。
- 牛乳類の需要動向については、短期的には震災直後の牛乳乳製品のサプライチェーンの混乱により特異な様相を呈したが、現時点ではほぼ落ち着きを取り戻しており、今後は、前年度をやや下回って推移すると予測される。
- 乳製品の消費動向については、今後も、バター・脱脂粉乳ともに、前年度を下回って推移すると予測される。

### 【生乳の需給】

- 以上の状況と本見通し策定の前提に立てば、都府県の生乳需給は、これまでは供給が需要を下回る状況であったが、今後牛乳類の消費が減少する時期に向けては、供給が需要を相当程度満たすことが予測され、生乳の広域的な需給調整にあつては乳製品需給にも配慮した適切な対応が求められる。
- したがって、今後の北海道からの生乳移入の必要量については、前年水準を下回って推移するものと予測されるものの、都府県の飲用向必要量はごく短期に変動する可能性もあり、酪農乳業関係者が引き続き的確な配乳調整に努め、適切に生乳移入等を実施することが必要である。
- また、乳製品向処理量は、生乳生産量の増加と相俟って9月以降は前年度を上回っており、当面、この傾向が継続すると予測される。

### 【酪農乳業の課題と対応】

#### 1. 牛乳類の学乳休止期における的確な対応

現時点の需給予測を踏まえると、都府県における特定乳製品向処理量は、学乳休止期の冬休み（12・1月）及び春休み（3月）は前年度を上回ると見通される。冬休み（12・1月）については、年末年始の特定期間に処理が集中するため、処理能力の限界もあり、わずかな需給変動によって大きな混乱を生じることが想定される。また、春休み（3月）は大きな処理必要量が予測され、且つ期間も長いため、一層の計画的な対応が求められる。

酪農乳業関係者は需給調整に大きな混乱が生じないように、日々の需給動向及び乳製品向処理の発生状況等の情報共有化に努め、的確な配乳計画や処理計画を策定し、適切なオーダー、配乳調整に努める必要がある。

#### 2. 乳製品需給の適正化について

今後の生乳生産量の回復予測から、全国の特定乳製品向処理量は、前年度を上回って推移すると予測される。一方で、バター・脱脂粉乳については計画的な供給等が成されていることから、流通量が前年度を下回って推移しており、前回9月時点の見通しに比べ、在庫状況はやや好転し、1月以降は在庫の積み増しができる状況と見通される。

しかし、今後の乳製品需要は不確定要素が多いことに加え、昨年より在庫量そのものは減少していることから、酪農乳業関係者はユーザーが混乱しないよう、業界全体として計画的な供給と適正な流通に努め、的確な需給情報を提供する必要がある。

#### 3. 酪農乳業の共通課題への取り組み

口蹄疫、猛暑、大震災、放射性物質問題の発生と酪農生産基盤を揺るがす諸問題が発生しているが、一方で牛乳乳製品を安定供給するために、需給予測に基づいた的確な需給調整を推進していく必要がある。

以上